

行政の窓

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査 (平成29年6月実施分)

1. 調査対象 道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m³以上の製材工場及び合板工場(調査対象工場数:111)
2. 調査実施時期 平成29年6月
3. 調査の内容 (原料在庫状況)前年同時期と比べた認識について選択式(「多い」「少ない」「変わらない」)により調査
(製品の荷動き)前年同時期と比べた認識について選択式(「良い」「悪い」「変わらない」)により調査

4. 企業判断指数の算出方法

[(回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%)) - (回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%))]
(最大値100/最小値-100)

5. 調査結果(回答工場数:103社 / 回答率:92.8%)

【①原料在庫状況(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H28.7-9	H28.10-12	H29.1-3	H29.4-6	H29.7-9	H29.10-12
H28.9	-23	<i>-28</i>	<i>-17</i>	-	-	-
H28.12	-	-41	<i>-34</i>	<i>-36</i>	-	-
H29.3	-	-	-17	<i>-29</i>	<i>-33</i>	-
H29.6	-	-	-	-11	<i>-24</i>	<i>-22</i>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m³)

	H28.7-9	H28.10-12	H29.1-3	H29.4-6	H29.7-9	H29.10-12
当年	153,073	137,052	163,819	-	-	-
(前年)	151,260	128,606	168,788	171,353	153,073	137,052
対前年比	101%	107%	97%	-	-	-

(概況)

原木在庫は前年並みの水準にあるが、今後は前年を下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)

現時点では昨年度よりやや多いが、これからは例年並みとなる事が予想される/小径木材の数量が極端に不足している/木質バイオマスの需要増が製材用木材に波及してくるのではないかと懸念している

【②製品の荷動き(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H28.7-9	H28.10-12	H29.1-3	H29.4-6	H29.7-9	H29.10-12
H28.9	-25	<i>-26</i>	<i>-28</i>	-	-	-
H28.12	-	-11	<i>-20</i>	<i>-9</i>	-	-
H29.3	-	-	-1	<i>-2</i>	<i>7</i>	-
H29.6	-	-	-	-3	<i>-5</i>	<i>-4</i>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m³)

	H28.7-9	H28.10-12	H29.1-3	H29.4-6	H29.7-9	H29.10-12
当年	209,713	203,086	188,783	-	-	-
(前年)	211,463	217,524	180,475	207,596	209,713	203,086
対前年比	99%	93%	105%	-	-	-

(概況)

荷動きは前年を若干上回っているが、今後は前年並みとなる見通し。

(回答企業の主なコメント)

荷動きは前年並み。来年の消費税アップの影響があるかどうか/4~5月は製材の動きが悪かった。6月以降に期待している

【③原料在庫状況(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H28.7-9	H28.10-12	H29.1-3	H29.4-6	H29.7-9	H29.10-12
H28.9	-37	<i>-49</i>	<i>-29</i>	-	-	-
H28.12	-	-50	<i>-40</i>	<i>-38</i>	-	-
H29.3	-	-	-38	<i>-41</i>	<i>-47</i>	-
H29.6	-	-	-	-15	<i>-33</i>	<i>-29</i>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m³)

	H28.7-9	H28.10-12	H29.1-3	H29.4-6	H29.7-9	H29.10-12
当年	236,551	203,646	231,761	-	-	-
(前年)	293,031	242,300	245,254	245,850	236,551	203,646
対前年比	81%	84%	94%	-	-	-

(概況)

原木在庫は前年を若干下回っており、今後も前年を下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)

年々不足感が強くなっている/夏は皆伐の予定もないので少なくなるだろう/風倒木処理の影響が出てくるのではと懸念している

【④製品の荷動き(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H28.7-9	H28.10-12	H29.1-3	H29.4-6	H29.7-9	H29.10-12
H28.9	-17	<i>-19</i>	<i>-21</i>	-	-	-
H28.12	-	13	<i>0</i>	<i>-4</i>	-	-
H29.3	-	-	6	<i>8</i>	<i>4</i>	-
H29.6	-	-	-	14	<i>-3</i>	<i>0</i>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m³)

	H28.7-9	H28.10-12	H29.1-3	H29.4-6	H29.7-9	H29.10-12
当年	288,325	304,286	293,447	-	-	-
(前年)	275,238	281,691	278,003	302,936	288,325	304,286
対前年比	105%	108%	106%	-	-	-

(概況)

荷動きは前年を上回っているが、今後は前年並みとなる見通し。

(回答企業の主なコメント)

梱包・パレット・ラミナ共に比較的順調/順調に推移しており、上半期については大きな変動は無いと予想/ラミナ材の落ち込みは現時点ではなく、全体でも増加している

(北海道水産林務部林務局 林業木材課 流通加工グループ 電話: 011-204-5491)